

2010 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day” 開催される

平成22年10月2日、駒沢オリンピック公園中央広場（東京都世田谷区）において、「2010動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」が、日本獣医師会の活動方針である「動物と人の健康はひとつ。そして、それは地球の願い。」をテーマとして、多数の来場者を得て盛大に開催された。

本行事は、第4回目を迎えるが、動物の診療だけではなく人の健康にも深くかかわる様々な仕事に取り組む獣医師の役割とともに、動物たちが担う社会役割の多様性を広く一般に普及して理解を促進することにより、動物愛護思想の普及・啓発、人と動物が共存して生きる豊かな社会の実現に寄与することを目的に開催する公益目的事業として実施するもので、本会主催、関係省庁・獣医師関係団体等の後援、関連企業等の協賛、関連団体、獣医学系大学の協力のもと、獣医師への理解を深めてもらうよう多数の催し物を企画し、獣医学系大学学生、高校生、動物飼育者等をはじめ、多数の一般市民に来場いただいた。

当日は、開会式で、本会山根会長から、今回の口蹄疫の防疫活動のように、獣医師が社会生活の中で果たす職責、役割について、この機会にさらに深く理解いただきたい旨挨拶がなされたほか、来賓である、民主党獣医師問題議員連盟幹事長 城島光力衆議院議員、自由民主党獣医師問題議員連盟幹事長 森 英介衆議院議員、公明党動物愛護管理プロジェクトチーム座長 高木美智子衆議院議員及び自由民主党 山田俊男参議院議員から祝辞が述べられた。続いて、来賓、特別協賛者等の紹介、祝電披露の後、諏訪流放鷹術保存会により、開会宣言のメッセージを携えた鷹が客席の後方から、中川副会長のもとへ飛んで行くという演出が行われた後、中川副会長から開会が宣言された。同時に、東京都立園芸高等学校の協力によりファンファーレとともにステージ脇から、55羽の鳩が青空へ飛び立った。引き続き、ステージでは、農場どないすんねん研究会の協力により、様々な現場で活躍する獣医師をゲストに迎えながら、寸劇により獣医師の職務を分かりやすく紹介する「獣医師の仕事—動物と人の健康はひとつ。そして、それは地球の願い。」の後、自由民主党 三原じゅん子参議院議員も来場して、ステージから挨拶された。午後からは、狂犬病臨床研究会の村山悠子氏（さいたま市保健所）と女性人気グループBump.yを迎え、狂犬病の説明、日本や世界の実情を紹介する「狂犬病予防法施行60周年企画 世界狂犬病

デー特別企画（同企画は展示コーナーも併設）」、飼い犬のしつけ方を訓練士（ジャパンケネルクラブ）が実演する「動物しつけ教室」、協賛企業による犬の手入れの講義「愛犬のスキンケアとブラッシング」、中川副会長及びBump.yの出演により、獣医師や獣医療に関連する様々な話題を分かりやすく解説するラジオ番組「Bump.yの教えて獣医さん！」の公開収録等が行われた。展示コーナーでは、本会担当の「1日獣医師体験コーナー」には、日本獣医学生協会の学生の指導による動物の健康診断に参加しようと、テント前は未来の獣医師たちで溢れ、各大学の「獣医学系大学コーナー」では、大学の担当教員が獣医師を希望する中高校生の相談に親身に応じていた。日本獣医学生協会が、飼い主に、中毒やアレルギー等を例に犬の食に関心を促す「動物の世界・動物のおやつ」、寄生虫等について講義形式で発表を行う「本当は怖いペットの病気」の他、パネル等を用いた各団体の活動紹介、さらに「各都道府県市獣医師会コーナー」では獣医師の畜産物への関わり方の解説がなされるとともに、全国の様々な畜産物を賞味しようと来場者が列をなしていた。中でも宮崎県獣医師会と宮崎大学が合同出展したブースでは、多くの来場者が口蹄疫のパネル展示に熱心に見入っていた。アトラクションとしては、子供たちを対象とした「乗馬体験」（日本中央競馬会）、ウサギ、モルモット、アヒル等とふれあう、「動物ふれあいコーナー」（東京都立園芸高等学校）、馬の蹄鉄投げで点数を競う「蹄鉄輪投げゲーム」（日本装蹄師会）では、子供たちが笑顔で参加し、警察犬、災害救助犬の実演が行われた「働く動物たち」（ジャパンケネルクラブ）、「聴導犬のデモンストレーション」（聴導犬普及協会）、馬が音楽に合わせて演技を行う「トリックホースショー」（日本中央競馬会）、犬と飼い主の息の合ったダンスの実演「ドッグダンス」（東京都家庭動物愛護協会）等では、来場者は動物たちの演技や活躍に終始感心していた。

日本獣医師会では、今後とも、日本獣医師会・獣医師会活動の指針の理念に基づき、本行事等を通じた、広く国民に対する動物との共生の重要性や獣医師の職務等の理解の醸成に努めることとしている。

以下に後援、協賛いただいた省庁、自治体、企業、団体を改めて紹介するとともに、多くの企業・団体から温かい支援、全国55地方獣医師会、地区獣医師会連合会の出展、協賛等への協力、さらに一般社団法人日本動物

看護職協会及び日本獣医学生協会のボランティアスタッフによる事業運営支援に対して改めてお礼申し上げたい。

2010 動物感謝デー in JAPAN 後援・協賛・協力団体

【後援】

農林水産省、環境省、厚生労働省、文部科学省、外務省、観光庁、内閣府食品安全委員会、東京都、世田谷区、目黒区、目黒区教育委員会、公益社団法人日本動物病院福祉協会、社団法人日本獣医学会、一般社団法人日本動物看護職協会、World Veterinary Association、ヒトと動物の関係学会、AIPO（動物ID普及推進会議）

【特別協賛】

共立製薬株式会社、日本全薬工業株式会社、メリアル・ジャパン株式会社、ロイヤルカナン ジャポン合同会社、ダイソン株式会社、日本ヒルズコルゲート株式会社、ファイザー株式会社、AHB インターナショナル株式会社、日清ペットフード株式会社、株式会社ペットオフィス

【協賛・協力】

日本中央競馬会、社団法人ジャパンケネルクラブ、社団法人全国農業共済協会、和牛知的財産権取得・活用推進協議会、社団法人中央畜産会、社団法人東京都家庭動物愛護協会、社団法人日本装蹄師会、一般社団法人全国ペット協会、一般社団法人ペットフード協会、特定非営利活動法人聴導犬普及協会、特定非営利活動法人全国盲導犬施設連合会、特定非営利活動法人どうぶつたちの病院、特定非営利活動法人Knots、農場どないすんねん研究会（NDK）、狂犬病臨床研究会、緊急災害時動物救援本部、小動物臨床栄養学研究会、動物のいたみ研究会、全国学校飼育動物研究会、農場管理獣医師協会、諏訪流放鷹術保存会、東京都立園芸高校、全国獣医学系大学、日本獣医学生協会、アニコム損害保険株式会社、アリアンツ火災海上保険株式会社、株式会社芸文社、学校法人シモゾノ学園国際動物専門学校、株式会社誠文堂新光社、DSファーマアニマルヘルス株式会社、デビフペット株式会社、バイエル薬品株式会社、プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社、平和会ペットメモリアル、

ペットベスト少額短期保険株式会社、株式会社緑書房、株式会社MORE、学校法人ヤマザキ学園大学、パルシステム生活協同組合連合会、株式会社共立商会、森久保薬品株式会社、株式会社安田システムサービス、株式会社損害保険ジャパン、株式会社インターペット、日生研株式会社、小田島商事株式会社、株式会社ジャルパック

【協力地方獣医師会】

社団法人北海道獣医師会、社団法人青森県獣医師会、社団法人岩手県獣医師会、社団法人宮城県獣医師会、社団法人秋田県獣医師会、社団法人山形県獣医師会、社団法人福島県獣医師会、社団法人仙台市獣医師会、社団法人茨城県獣医師会、社団法人栃木県獣医師会、社団法人群馬県獣医師会、社団法人埼玉県獣医師会、社団法人千葉県獣医師会、社団法人神奈川県獣医師会、社団法人山梨県獣医師会、社団法人横浜市獣医師会、社団法人川崎市獣医師会、社団法人東京都獣医師会、公益社団法人新潟県獣医師会、社団法人富山県獣医師会、社団法人石川県獣医師会、社団法人福井県獣医師会、社団法人長野県獣医師会、社団法人岐阜県獣医師会、社団法人静岡県獣医師会、社団法人愛知県獣医師会、社団法人名古屋市獣医師会、公益社団法人三重県獣医師会、社団法人滋賀県獣医師会、社団法人京都府獣医師会、社団法人大阪府獣医師会、社団法人兵庫県獣医師会、社団法人奈良県獣医師会、社団法人和歌山県獣医師会、社団法人京都市獣医師会、公益社団法人大阪市獣医師会、社団法人神戸市獣医師会、社団法人鳥取県獣医師会、社団法人島根県獣医師会、社団法人岡山県獣医師会、社団法人広島県獣医師会、社団法人山口県獣医師会、社団法人徳島県獣医師会、社団法人香川県獣医師会、社団法人愛媛県獣医師会、社団法人高知県獣医師会、社団法人福岡県獣医師会、社団法人佐賀県獣医師会、社団法人長崎県獣医師会、社団法人熊本県獣医師会、社団法人大分県獣医師会、社団法人宮崎県獣医師会、社団法人鹿児島県獣医師会、社団法人沖縄県獣医師会、社団法人北九州市獣医師会、東北獣医師会連合、中国地区獣医師会連合、九州地区獣医師会連合会



図1 開会式で挨拶を行う山根会長



図2 諏訪流放鷹術保存会の鷹が運んだメッセージを受け取り開会宣言に臨む中川副会長



図3 「獣医師の仕事」での寸劇（農場どないすんねん研究会）



図7 「狂犬病予防法施行60周年企画 世界狂犬病デー特別企画」のブース（狂犬病臨床研究会）



図4 ラジオ公開収録「Bump.yの教えて獣医さん」（ニッポン放送）



図8 「本当は怖いペットの病気」での講義風景（日本学生協会）



図5 「1日獣医師体験コーナー」で獣医学生からの指導で犬の心音に聞き入る児童（日本獣医師会）



図9 ステージ前には立ち見も出るほど来場者があふれた



図6 「獣医学系大学相談コーナー」で、興味を示す来場者へ説明を行う担当教員（酪農学園大学）



図10 北村顧問による閉会宣言